

**豊島区 子育て支援ニーズ調査  
結果報告書**



**平成 26 年(2014 年)3月  
豊 島 区**



## 目 次

1. 調査の概要.....	1
I 調査の目的.....	1
II 調査期間・調査方法等.....	1
III 調査対象者・回収.....	1
IV 留意事項.....	1
2. 調査結果の概要.....	2
I 就学前児童保護者調査.....	2
II 小学生保護者調査.....	3
III 中高生保護者調査.....	5
IV 小学生（4～6年生）本人調査.....	6
V 中学生・高校生等本人調査.....	7
3. 結果の考察.....	9
I 就労等、家族の状況について.....	9
II 教育・保育事業等の利用について.....	10
III 子どもの居場所について.....	11
IV 子どもの生活状況、区への要望等について.....	11
V 小学生、中高生等本人の状況について.....	12
4. 調査結果.....	14
I 就学前児童保護者.....	14
1 お子さんご家族の状況について.....	14
2 保護者の就労状況について.....	19
3 お子さんの平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について.....	33
4 待機児童対策について.....	47
5 お子さんの地域の子育て支援事業の利用状況について.....	50
6 土曜・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について.....	54
7 お子さんの病気の際の対応について.....	56
8 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	59
9 お子さんが5歳以上である方の、小学校就学後の放課後の過ごし方について.....	63
10 子育て全般について.....	65
II 小学生保護者.....	82
1 お子さんご家族の状況について.....	82
2 保護者の就労状況について.....	86
3 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について.....	98
4 お子さんの病気の際の対応について.....	103
5 お子さんの宿泊を伴う一時預かり等の利用について.....	104
6 子育て全般について.....	106

Ⅲ 中高生保護者.....	117
1 お子さんご家族の状況について.....	117
2 保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）について.....	122
3 お子さんの放課後や自由時間の過ごし方について.....	130
4 子育て全般について.....	136
Ⅳ 小学生（4～6年生）本人.....	151
1 あなたのことにについて.....	151
2 学校が終わってからの過ごし方について.....	153
3 ふだんの生活について.....	156
4 家での生活について.....	162
5 困ったり、悩んだりしていることについて.....	165
6 地域での活動について.....	166
7 区の施設や豊島区のことについて.....	167
Ⅴ 中学生・高校生等本人.....	169
1 あなたのことにについて.....	169
2 放課後や自由時間の過ごし方について.....	172
3 ふだんの生活について.....	178
4 家での生活について.....	185
5 困ったり、悩んだりしていることについて.....	187
6 地域での活動や豊島区のことについて.....	190
5. 自由記述.....	195
6. 調査問比較.....	264
7. 経年比較.....	276
8. 使用した調査票.....	304

# 1. 調査の概要

## I 調査の目的

本調査は、子ども・子育て支援法に基づく「豊島区子ども・子育て支援事業計画」、及び「新豊島区子どもプラン」を策定するため、子どもの保護者に対し、子育てなどの生活実態やご要望、ご意見などを把握するとともに、小学校高学年、中高生等の子ども本人に対しても実施しました。

## II 調査期間・調査方法等

調査期間：平成 25 年 11 月 5 日～11 月 19 日

調査方法：郵送による配付・回収

## III 調査対象者・回収

	配付数	回収数	回収率	母集団数 (25. 4. 1)	回収数/ 母集団数
①就学前児童 保護者	1,500	801	53.4%	10,273	7.8%
②就学児童(小学生) 保護者	1,500	752	50.1%	8,490	8.9%
③中学生・高校生 保護者	1,500	580	38.7%	8,736	6.6%
④小学生(4～6年生) 本人	750	333	44.4%	4,296	7.8%
⑤中学生・高校生等 本人	1,500	515	34.3%	8,736	5.9%
計	6,750	2,981	44.2%		

## IV 留意事項

- 質問のなかには前問で答えた人のみが答える「限定質問」があり、表中の「回答者数」が全体より少なくなる場合があります。また、質問ごとに全回答者数を  $n=〇〇$  で表示しています。
- 質問には1つのみ答えるものSA（シングルアンサー）と複数回答のものMA（マルチアンサー）があり、マルチアンサーの質問では、表記の割合の合計は100.0%を超えます。
- 割合は選択肢ごとに小数第2位で四捨五入しているため、その割合の合計は100.0%にならないところがあります。
- 選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いています。
- クロス集計結果のグラフや表について、表側となる質問に「無回答」は表示しないため、表側のカテゴリーの合計件数と全体の件数が一致しない場合があります。

## 2. 調査結果の概要

### I 就学前児童保護者調査

#### ○調査対象児童とその家族の状況について

- ・調査対象児童の年齢の構成比は、0歳（17.7%）が最も多く、上の年齢ほどやや少なくなっており、5歳が14.0%、6歳はわずかとなっています。
- ・家族の人数では「4人」と「3人」が3割台が多く、調査対象児童を含めた兄弟・姉妹数は「2人」と「1人」が4割台となっています。また、回答者の5.4%は「配偶者がいない」と回答しています。
- ・調査票の回答者は「母親」が90.8%、「父親」が7.7%。子育てを主に行っているのは「父母ともに」が51.1%、「主に母親」が46.6%と全体をほぼ2分しています。
- ・豊島区での居住歴は「1年～5年」が4割、「6年～10年」が2割台後半となっています。

#### ○保護者の就労状況について

- ・母親の就労状況は、産休・育休・介護休業中を含め、「フルタイム」が3割台後半、「パート等」が1割台後半で、4割が就労していない状況となっています。父親は9割が「フルタイム」となっています。「パート等」で就労する母親の4割はフルタイムへの転換希望があり、就労していない母親の18.9%は1年以内に、42.5%は1年より先に就労したいと回答しています。
- ・就労している母親の就労日数は「5日」が7割、「6日」が1割弱となっています。父親は「5日」が6割台後半、「6日」が2割台前半となっています。
- ・母親の出勤時刻は「8時」、帰宅時刻は「18時」を中心に多くなっており、父親では出勤時刻は「8時」、帰宅時刻は「20時」から「22時」が中心となっています。
- ・土曜日に就労することがあるのは、母親では3割台前半、父親では5割台前半となっており、日曜日・祝日は、母親では2割台半ば（「時々就労」と「ほとんど就労」の合計）、父親では5割台前半となっています。
- ・調査対象児童のときの育児休業は、母親の37.7%、父親の2.0%が利用しています。

#### ○平日の定期的な教育・保育事業の利用について

- ・幼稚園、保育所などの定期的な教育・保育事業を利用しているのは69.7%となっています。この内の、約5割が「認可保育所」、3割台半ばが「幼稚園」を利用しています。利用している理由については、「（保護者が）現在就労している」が62.2%、「子どもの教育のため」が26.3%となっています。
- ・定期的な教育・保育の事業を利用していない理由は、「必要がない」が38.3%、「子どもがまだ小さいため」が23.8%、「預けたいが、空きがない」が16.7%となっています。
- ・現在の利用の有無にかかわらず、平日の教育・保育事業として定期的に利用したい事業については、「幼稚園」が48.2%、「認可保育所」が44.1%、「幼稚園の預かり保育」が36.3%、「認定こども園」が31.7%、「ファミリー・サポート・センター」が15.2%となっています。
- ・この1年間に保育所を「探した・探している」のは、全体の28.8%となっており、その中で「どこにも入れず、現在も探している」、「保育の利用はあきらめた」がともに1割となっています。

#### ○地域の子育て支援事業の利用状況について

- ・地域の子育て支援事業について、「子育てひろば」は27.6%、「子ども家庭支援センター」は14.7%が利用しています。また、子育てひろばについては3割台前半、こども家庭支援センターについては2割台後半が、今後新たに利用したい、または利用日数を増やしたいと回答しています。

#### ○土曜・休日・長期休暇中の教育・保育事業の利用希望について

- ・土曜日については3割、日曜日・祝日については1割台後半が、定期的な教育・保育事業の利用希望（「ほぼ毎週利用したい」または「月に1～2回は利用したい」）を持っています。
- ・幼稚園の長期休暇期間中の利用希望については、幼稚園利用者の5.4%が「ほぼ毎日」、43.6%が「週に数日」それぞれ利用したいと回答しています。

### ○子どもの病気の際の対応について

- ・定期的な教育・保育事業を利用している子どもが、病気やケガで事業を利用できなかったことが過去1年間にあったのは72.0%となっています。休んだ日の対処としては、「母親が仕事を休んだ」が7割、「父親が仕事を休んだ」と「親族・知人にみてもらった」が3割台となっています。
- ・病気やケガの子どもをみるために、父親か母親が仕事を休んだ経験のある保護者の、病児・病後児保育の利用希望については、「施設型」の利用希望が58.4%、「訪問型」の利用希望が28.4%となっています。
- ・豊島区の病後児保育室については、「知っており、利用したことがある」は4.2%、「知っているが利用したことはない」と「知らない」がそれぞれ3割台となっています。また、40.0%が今後「利用したい」と回答しています。

### ○不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりについて

- ・不定期で利用している教育・保育事業については、「利用していない」が69.0%、「幼稚園の預かり保育」が10.2%、「(保育園等の)一時預かり」が8.9%となっています。利用希望については、54.9%が「利用したい」と回答しています。
- ・豊島区の一時的保育事業については、「知っており、利用したことがある」が19.7%、「知っているが利用したことはない」が61.8%、「知らない」が15.9%となっています。

### ○小学校就学後の放課後の過ごし方について

- ・調査対象児童(5歳以上)の小学校就学後の放課後の過ごし方の希望については、週1日以上の利用希望のあるものとして、低学年では「習い事」が53.5%、「子どもスキップ」が47.4%、「自宅」が38.6%、「学童クラブ」が34.2%となっています。高学年では「習い事」が71.1%、「自宅」が54.4%、「子どもスキップ」が41.2%、「学童クラブ」が17.5%となっています。

### ○子育て全般について

- ・子育てについては、「楽しいと感じることの方が多い」が71.0%、「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」が23.1%、「辛いと感じることの方が多い」が3.5%となっています。
- ・子育ての支援については、祖父母からの「支援はない」が15.1%、友人・知人からの「支援はない」は48.8%となっています。地域の方々からの支援の必要性を「感じたことがある」は48.8%となっています。
- ・町会や青少年育成委員会などの地域の子育て支援活動への参加については、「すでに参加している／参加したことがある」が14.7%、「参加していないが、将来、参加したい」が47.3%、「参加していないし、将来も参加しようとは思わない」が36.2%となっています。
- ・育児に関する不安や悩みについては、「遊ばせ方やしつけに関すること」が45.8%、「仕事と子育ての両立に関すること」が37.8%、「経済的な負担に関すること」が30.1%となっています。不安や悩みの相談先としては、「身内」が88.8%、「職場の人や知人・友人」が58.1%、「保育園や幼稚園の先生」が46.6%となっています。
- ・子育てに関する情報・相談を受けたい場所については、「保育園・幼稚園」が55.9%、「児童館・区民ひろば」が25.3%となっています。子育てに関して不足していると感じる情報では「子どもと一緒に外出できる場の情報」が最も多く、子連れで外出する際に特に気にかかる点では、「雨の日に子どもを遊ばせる場所がない」が特に多くなっています。
- ・豊島区の「子どもの権利に関する条例」については、内容を少しでも知っているのは約1割、「聞いたことがあるが内容は知らない」が26.5%、「名前を聞いたことがない／知らない」が61.8%となっています。
- ・子育て支援に関する施策や事業について望むこととしては、「子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備」と「子どもが安心して遊べる公園等の屋外遊び場の整備」が5割を超えています。

## II 小学生保護者調査

### ○調査対象児童とその家族の状況について

- ・調査対象児童の学年の構成比は、「1年生」(19.8%)が最も多く、「5年生」(13.8%)が最も少なくなっています。

- ・通学している小学校は、「豊島区立の小学校」が82.8%、「私立小学校・国立小学校」が12.5%となっています。
- ・家族の人数では「4人」が41.0%、「3人」が24.3%、「5人」が17.2%となっており、調査対象児童を含めた兄弟・姉妹数は「2人」が51.2%、「1人」が28.2%、「3人」が16.1%となっています。
- ・調査票の回答者は、「母親」が86.7%、「父親」が11.4%。子育てを主に行っているのは「父母ともに」が52.4%、「主に母親」が44.3%となっています。
- ・豊島区での居住歴は、「6年～10年」が27.8%、「11年～15年」、「21年以上」、「1年～5年」がいずれも2割前後となっています。

### ○保護者の就労状況について

- ・母親の就労状況は、産休・育休・介護休業中を含め、「フルタイム」が3割、「パート等」が3割、就労していないのは3割台後半となっています。父親は8割台半ばが「フルタイム」となっています。「パート等」で就労する母親の2割台後半はフルタイムへの転換希望があり、就労していない母親の19.4%は1年以内に、34.1%は1年より先に就労したいと回答しています。
- ・就労している母親の就労日数は「5日」が55.8%、「3日」、「4日」、「6日」が1割前後となっています。父親は「5日」が6割台半ば、「6日」が2割台後半となっています。
- ・母親の出勤時刻は「10時」、帰宅時刻は「18時」を中心に多くなっており、父親では出勤時刻は「7時」、帰宅時刻は「19時」から「22時」が中心となっています。
- ・土曜日の就労状況では母親が3割台半ば、父親が4割台後半となっており、日曜日・祝日では、母親は2割台後半（「時々就労」と「ほとんど就労」の合計）、父親は4割台半ばとなっています。

### ○平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

- ・放課後過ごさせたい場所については、週1日以上の利用希望のあるものとして、低学年では「習い事（各種音楽教室、各種スポーツクラブ、学習塾など）」が53.6%、「自宅」が38.6%、「子どもスキップ」が33.6%、「その他（公園など）」が23.6%、「学童クラブ」が19.8%となっています。高学年では、低学年に比べ「自宅」や「区民ひろば」で割合がやや多くなっているものの、「習い事（各種音楽教室、各種スポーツクラブ、学習塾など）」や「子どもスキップ」、「学童クラブ」では10ポイント前後少なくなっています。
- ・学童クラブの現在の利用時間は、下校から「18時」までが40.3%、「17時」までが35.3%となっており、希望の利用時間については「現状のままでよい」が47.4%、「希望の時間がある」が30.1%となっています。

### ○子どもの病気の際の対応について

- ・子どもが、病気やケガで学校を休まなければならなかったことが過去1年間にあったのは、61.8%となっています。休んだ日の対応としては、「母親が仕事を休んだ」が46.7%、「就労していない親が子どもをみた」が35.5%となっています。

### ○子どもの宿泊を伴う一時預かり等の利用について

- ・この1年間に、保護者の用事により子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかったことについては、14.1%が「あった」と回答しています。またその内の7割台後半が、「親族・知人にみてもらった」と回答しています。
- ・豊島区の「子どもショートステイ事業」については、「知っており、利用したことがある」が0.5%、「知っているが利用したことはない」が14.2%、「知らない」が83.8%となっています。

### ○子育て全般について

- ・子どもの毎月のお小遣いは、「1千円未満」が28.7%、「渡していない」が48.3%、「必要な時に渡している」が14.6%となっており、その使い道については「お菓子・ジュース」が58.3%、「文房具」が35.8%、「マンガ・雑誌」が29.3%となっています。
- ・携帯電話については、45.7%の子どもが持っており、毎月の料金は「1千円未満」が58.7%、「1千～3千円未満」が28.5%となっています。
- ・子育てについては、「楽しいと感じることの方が多い」が66.1%、「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」が26.7%、「辛いと感じることの方が多い」が2.1%となっています。



- ・子育ての支援については、祖父母からの「支援はない」が21.5%、友人・知人からの「支援はない」は39.1%となっています。地域の方々からの支援の必要性を「感じたことがある」は46.7%となっています。
- ・町会や青少年育成委員会などの地域の子育て支援活動への参加については、「すでに参加している／参加したことがある」が27.3%、「参加していないが、将来、参加したい」が36.0%、「参加していないし、将来も参加しようとは思わない」が35.5%となっています。
- ・育児に関する不安や悩みについては、「進学のこと」が40.3%、「遊ばせ方やしつけに関すること」が34.4%、「教育費のこと」が29.4%となっています。不安や悩みの相談先としては、「身内」が83.5%、「職場の人や知人・友人」が57.4%、「小学校の先生」が25.9%となっています。
- ・子育てに関する情報・相談を受けたい場所については、「小学校」が43.8%、「児童館・区民ひろば・子どもスキップ」が29.3%となっています。子育てに関して不足していると感じる情報では、「子どもの進路や進学に関する情報」が最も多く、子連れで外出する際に特に気にかかる点では、「雨の日に子どもを遊ばせる場所がない」が最も多くなっています。
- ・豊島区の「子どもの権利に関する条例」については、内容を少しでも知っているのは1割台後半、「聞いたことがあるが内容は知らない」が34.6%、「名前を聞いたことがない／知らない」が47.2%となっています。
- ・子育て支援に関する施策や事業について望むこととしては、「子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備」と「子どもが安心して遊べる公園等の屋外遊び場の整備」が5割を超えています。

### Ⅲ 中高生保護者調査

#### ○調査対象者とその家族の状況について

- ・調査票の回答者は「母親」が82.1%、「父親」が14.0%。主に調査対象者の世話をしているのは「主に母親」が62.8%、「父母ともに」が30.9%となっています。
- ・調査対象者の就学・就労状況は、「中学」が54.3%、「高校」が45.0%、「就労している」が0.2%となっています。通学先は、「豊島区内の公立学校」が33.1%、「豊島区外の公立学校」が14.5%、「私立・国立の学校」が50.7%となっています。
- ・家族の人数では「4人」が39.5%、「3人」が25.2%、「5人」が16.9%となっており、調査対象者を含めた兄弟・姉妹数は「2人」が54.1%、「1人」が22.9%、「3人」が18.4%となっています。
- ・豊島区での居住歴は、「21年以上」が33.3%で最も多く、次いで、「11年～15年」と「16年～20年」が17.8%となっています。

#### ○保護者の就労状況について

- ・母親の就労状況は、産休・育休・介護休業中を含め、「フルタイム」が3割台半ば、「パート等」が3割台前半、就労していないのは2割台後半となっています。父親は7割台後半が「フルタイム」です。「パート等」で就労する母親の2割台半ばはフルタイムへの転換希望があり、就労していない母親の26.3%は1年以内に、9.9%は1年より先に就労したいと回答しています。
- ・就労している母親の就労日数は「5日」が55.1%、「3日」、「4日」、「6日」が1割前後となっています。父親は「5日」が64.1%、「6日」が22.8%となっています。
- ・母親の出勤時刻は「8時」、帰宅時刻は「18時」を中心に多くなっており、父親では出勤は「7時」から「8時」、帰宅は「19時」から「21時」が中心となっています。
- ・土曜日の就労状況では、母親は3割台半ば、父親は4割台前半となっており、日曜日・祝日では母親が3割（「時々就労」と「ほとんど就労」の合計）、父親が4割となっています。

#### ○子どもの放課後や自由時間の過ごし方について

- ・学校のクラブ活動には「参加している」が61.4%、「参加していない」が25.2%となっています。平日のクラブ活動は「週に1～2日」が24.4%、「週に3～4日」が45.2%、「ほとんど毎日」が28.4%となっており、1日の活動時間は「1～2時間」が45.8%、「2～3時間」が42.7%となっています。土曜日のクラブ活動は「月に1～2日」が15.2%、「ほとんど毎週」が49.4%で、日曜日は「月に1～2日」が21.6%、「ほとんど毎週」が19.7%となっています。
- ・放課後の自由時間の過ごし方では、「自宅で兄弟・姉妹や家族と過ごす」が52.4%、「自宅で1人で

過ごす」が46.9%、「学習塾や習い事に行く」が43.4%となっています。

- ・パソコンを持っているのは31.4%、携帯電話は83.3%が所持しており、月当たりの料金は「5千～8千円未満」が33.1%、「3千～5千円未満」が28.2%、「1千～3千円未満」が18.0%となっています。
- ・毎月のお小遣いは「必要な時に渡している」が25.5%、「1千～3千円未満」が22.7%、「3千～5千円未満」が20.1%、「5千～8千円未満」が14.4%となっています。使い道としては「お菓子・ジュースを買う」が65.7%、「遊びに行く交通費・入場料などに使う」が45.2%、「マンガ・雑誌を買う」が42.4%となっています。

#### ○子育て全般について

- ・子育てについては、「楽しいと感じることの方が多い」が61.6%、「楽しいと感じることと辛いと感じることが同じくらい」が26.0%、「辛いと感じることの方が多い」が5.0%となっています。
- ・子育てについて、地域の方々からの支援の必要性を「感じたことがある」は44.5%となっています。
- ・町会や青少年育成委員会などの地域の子育て支援活動への参加については、「すでに参加している／参加したことがある」が27.1%、「参加していないが、将来、参加したい」が27.8%、「参加していないし、将来も参加しようとは思わない」が43.4%となっています。
- ・育児に関する不安や悩みについては、「進学のこと」が54.3%、「教育費のこと」が39.1%、「学習態度や成績のこと」が33.6%となっています。不安や悩みの相談先としては、「身内」が80.9%、「職場の人や知人・友人」が55.5%、「学校の先生」が30.3%となっています。
- ・子育てに関する情報・相談を受けたい場所については、「中学校・高校等」が39.3%、「児童館・区民ひろば・中高生センター」が20.7%となっています。子育てに関して不足していると感じる情報では、「子どもの進路や進学に関する情報」が46.9%で特に多くなっています。
- ・豊島区の「子どもの権利に関する条例」については、内容を少しでも知っているのは2割台前半、「聞いたことがあるが内容は知らない」が37.6%、「名前を聞いたことがない／知らない」が37.4%となっています。
- ・子育て支援に関する施策や事業について望むこととしては、「子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備」が54.0%で最も多く、次いで「休日・夜間診療などの小児医療体制の充実」、「子どもが安心して遊べる公園等の屋外遊び場の整備」、「子育てに関する手当の充実や子育てにかかる経済的負担の軽減」が4割を超えています。

## IV 小学生（4～6年生）本人調査

#### ○調査対象者とその家族の状況について

- ・調査対象者の性別は、「男子」が42.9%、「女子」が56.8%となっています。学年は「4年生」が35.4%、「5年生」が28.2%、「6年生」が35.7%となっています。通学先は、「区立小学校」が85.3%、「私立小学校」が7.2%、「国立小学校」が5.4%となっています。
- ・家族の人数は「4人」が40.5%、「3人」が24.6%、「5人」が16.2%となっており、調査対象児童を含めた兄弟・姉妹数は「2人」が52.3%、「1人」が26.7%、「3人」が16.8%となっています。

#### ○学校が終わってからの過ごし方について

- ・学校が終わってからの過ごし方の現状は、「学習塾や習い事」が46.5%、「自宅で兄弟・姉妹や家族と過ごす」が41.1%、「自宅で1人で過ごす」が21.9%となっています。
- ・高学年での学童クラブの利用については、「利用したい」が14.4%、利用したいとは思わない」が57.7%となっています。
- ・友達と遊ぶのは、平日では「週に1～2日遊ぶ」、土曜日・日曜日は「遊ばない」が最も多くなっています。遊ぶ相手は「クラスの友だち」が63.1%と特に多く、遊びの内容は「スポーツなど体を動かすこと」が54.4%、「ゲームをすること」が45.9%、「友だちとおしゃべりすること」が39.6%となっています。

#### ○普段の生活について

- ・学習塾の回数の現状は、「週に2回」が24.9%、「週に4回より多い」が14.1%、「週に3回」と「週

- に1回」が1割前後で、「通っていない」が27.3%となっています。習い事については、「週に1回」と「週に2回」が2割台前半、「週に4回より多い」と「通っていない」が1割台半ばとなっています。
- ・平日テレビやビデオを見る時間は「1時間～2時間の間」が最も多く、ゲームやメールなどをする時間や勉強時間は「30分～1時間の間」が多くなっています。
- ・インターネットの使用については、「ときどき使っている」が39.6%、「ほとんど毎日、使っている」が24.6%となっています。行う内容については、「動画サイトを見る」が52.8%、「インターネットでのゲーム」が32.7%、「ホームページやブログを見る」が31.8%となっています。
- ・自分専用の携帯電話(スマートフォン)を持っているのは50.5%、使用頻度は「毎日使う」が36.9%、「週に2回か3回くらい使う」が34.5%、「ほとんど使わない」が23.2%となっています。

### ○家での生活について

- ・学校であった事について、家族とは「よく話をする」が57.1%、「たまに話をする」が32.7%となっており、主に会話をするのは「お母さん」が97.0%、「お父さん」が36.1%、「兄弟・姉妹」が31.4%となっています。
- ・家族全員での朝食は「ほとんど毎日」、「週に1～2回くらい」、「ほとんどない」がそれぞれ3割前後となっています。

### ○困ったり、悩んだりしていることについて

- ・学校は「とても楽しい」または「楽しい」が86.4%、「あまり楽しくない」または「楽しくない」が12.9%となっています。学校に行きたくないことは「よくある」が6.3%、「たまにある」が34.5%となっています。
- ・悩んだり困っていることとしては「勉強のこと」が24.6%、「進路や進学、将来のこと」が19.2%、「友だちとのこと」が17.1%となっており、悩みや困っていることの相談先は「お母さん」が76.0%、「友だち」が35.1%、「お父さん」が26.7%、「学校の先生」が19.5%となっています。

### ○地域での活動について

- ・この1年間に参加した地域活動では「地域の祭り・盆踊り」が72.7%、「ラジオ体操」が40.5%、「スポーツ大会やスポーツ教室」が26.1%となっています。

### ○区の施設や豊島区のことについて

- ・区の施設の利用については、「区の図書館」、「区の公園」、「学校の校庭開放や施設開放」については「よく使う」が2～3割、「たまに使う」との合計が7～8割と、比較的良好に利用されています。

## V 中学生・高校生等本人調査

### ○調査対象者とその家族の状況について

- ・調査対象者の性別は、「男子」が49.9%、「女子」が49.9%、通っている学校は「中学」が54.6%、「高校」が44.5%となっています。
- ・家族の人数は「4人」が41.9%、「3人」が24.3%、「5人」が16.7%となっており、調査対象者を含めた兄弟・姉妹数は「2人」が55.1%、「1人」が21.9%、「3人」が18.4%となっています。

### ○放課後や自由時間の過ごし方について

- ・学校のクラブ活動には「参加している」が69.9%、「参加していない」が24.1%となっています。平日のクラブ活動は「週に1～2日」が25.6%、「週に3～4日」が42.8%、「ほとんど毎日」が30.0%となっており、1日の活動時間は「1～2時間」が43.5%、「2～3時間」が41.8%となっています。土曜日のクラブ活動は「月に1～2日」が16.1%、「ほとんど毎週」が50.0%で、日曜日は「月に1～2日」が18.3%、「ほとんど毎週」が20.6%となっています。
- ・放課後の自由時間の過ごし方では、「自宅で1人で過ごす」が48.7%、「自宅で兄弟・姉妹や家族と過ごす」が43.7%、「学習塾や習い事に行く」が36.9%となっています。
- ・友達と遊ぶのは、平日・土曜日は「遊ばない」、日曜日は「月に1～2日遊ぶ」が最も多くなっています。遊ぶ相手は「クラスやクラブ活動の友だち」が71.5%と特に多く、遊びの内容は、「友だちとお

しゃべりすること」が58.1%、「お店を見たり、買い物すること」が36.7%、「カラオケやゲームセンターに行くこと」が34.2%となっています。

### ○ふだんの生活について

- ・学習塾の回数の現状は、「通っていない」が44.1%、「週に2回」が15.9%、「週に1回」、「週に3回」、「週に4回より多い」がそれぞれ1割前後となっています。習い事については、「通っていない(通いたいとは思わない)」が56.1%、「週に1回」が17.3%となっています。
- ・平日テレビやビデオを見る時間は「1時間~2時間」が最も多く、ゲームやメールなどをする時間は「30分~1時間」、「1時間~2時間」、「3時間以上」がそれぞれ2割前後となっています。
- ・インターネットの使用については、「ほとんど毎日、使っている」が68.3%、「ときどき使っている」が19.2%となっています。インターネットで行う内容については、「動画サイトの閲覧」が57.1%、「メールのやりとり」が55.3%、「ウェブサイトやブログの閲覧」が52.5%となっています。
- ・自分専用の携帯電話(スマートフォン)を持っているのは77.7%、使用頻度は「毎日使う」が43.5%、「週に2回か3回くらい使う」が17.3%、「ほとんど使わない」が37.0%となっています。また、「LINE等のアプリを利用して常時やりとりしている」のは、携帯電話所持者の半数を超えています。

### ○家での生活について

- ・学校であった事について、家族とは「よく話をする」が49.9%、「たまに話をする」が35.7%となっており、主に会話をするのは「母」が95.7%、「父」が31.5%、「兄弟・姉妹」が38.3%となっています。
- ・家族全員での朝食は「ほとんど毎日」と「週に1~2回くらい」が2割台、「ほとんどない」が4割台半ばとなっています。

### ○困ったり、悩んだりしていることについて

- ・学校や仕事は「とても楽しい」または「楽しい」が86.8%、「あまり楽しくない」または「楽しくない」が12.1%となっています。学校や仕事に行きたくないことは「よくある」が12.8%、「たまにある」が39.0%となっています。
- ・悩んだり困っていることでは、「進路・進学、将来のこと」が52.0%、「勉強のこと」が50.9%で特に多くなっており、悩みや困っていることの相談先は「家族(親・兄弟・姉妹など)」が64.5%、「友達・先輩」が63.5%、「学校の先生、職場の上司」が15.1%となっています。

### ○地域での活動や豊島区のことについて

- ・この1年間に参加した地域活動では「地域の祭り・盆踊り」が40.8%、「参加したことはない」が48.7%となっています。

### ○区の施設や豊島区のことについて

- ・区の施設の利用については、「区の図書館」は「よく利用する」が14.6%、「たまに利用する」が53.0%で最もよく利用されており、次いで「区の公園」が「よく利用する」が8.3%、「たまに利用する」が44.7%となっています。「中高生センター(ジャンプ東池袋・長崎)」は、それぞれ4.7%、13.2%となっています。

## 3. 結果の考察

### I 就労等、家族の状況について

#### ○子どもとの関わり

- ・子育てを主に行っている人について、就学前児童・小学生児童ともに「父母ともに」が約半数、「主に母親」も4割台半ばを占めています。
- ・中高生では、宛て名のお子さんの身の回りの世話をしている人は「主に母親」が6割強と最も多くなっています。

#### ○母親の就労状況

- ・就学前児童では「以前は就労、現在は働いていない」が多くなっています。
- ・就学前児童では、就労形態に関わらず就労している人は5割台半ばとなっており、いずれの年齢においても、フルタイムでの就労が多くなっています。また、5年前に比べ、就労している割合が増加し、未就労の人が減少しています。
- ・小学生児童では、フルタイムの就労とパート等による就労と現在未就労がほぼ同程度となっており、就労形態に関わらず就労している人は6割となっています。
- ・中高生では、フルタイムでの就労が3割台半ば、パート等による就労が3割台前半となっており、就労形態に関わらず就労している人は6割台半ばを占めています。

#### ○母親の今後の就労意向

- ・パート等で就労している母親の今後のフルタイムへの転換意向は、就学前児童、小学生児童、中高生ともに「パート・アルバイト等就労を続けることを希望」が半数以上で、フルタイムへの転換を希望している人は就学前児童と小学生児童は3割弱から4割程度、中高生は2割台半ばとなっています。
- ・現在未就労の母親の今後の就労意向は、就学前児童、小学生児童ともに、「一番下の子どもが一定の年齢に達したところに就労したい」と考えている人が多く、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が約2割となっています。中高生については、「子育てや家事などに専念したい」が4割強で多くなっています。
- ・就労希望があるのに、働いていない理由としては、就学前児童・小学生児童ともに「子育てしながら働ける適当な仕事がないため」が3割と最も多く、就学前児童では「保育園などの保育サービスが受けられないため」も2割強となっています。

⇒子育てや身の回りの世話を主に行っている人は、就学前児童・小学生児童では「父母ともに」が約半数となっています。しかし、調査票の回答者の9割以上が母親であること、乳幼児期は母親中心の子育てが展開される傾向があることなどを考えると、実際は「子育ては、母親中心に行い、父親はできる範囲で協力」している状況が推察されます。また、就学前児童において、母親がフルタイムで働く割合が高く、母親への負担が父親よりも大きいことが考えられます。

また、母親の就労状況をみると、フルタイムで就労している割合にあまり変化はないものの、パート・アルバイト等での就労が就学前児童では1割台後半、小学生児童では3割、中高生では3割台後半となっており、子どもの年齢が上がるにつれて、就労する母親の割合が増加していることがわかります。一方で、就学前児童・小学生児童の現在就労していない母親でも就労意向をもっている割合が5割から6割と高くなっています。就労希望があるのに、働いていない理由としては、就学前児童・小学生児童ともに「子育てしながら働ける適当な仕事がないため」が3割、就学前児童では「保育園などの保育サービスが受けられないため」も2割強となっています。

また、父親の就労時間は母親より長く、このことが父親の子育てへの関わりを物理的に難しくしていると考えられるため、母親だけでなく、父親も就労と子育てを両立できる環境づくりをさらに進めることが必要であると考えられます。

## Ⅱ 教育・保育事業等の利用について

### ○教育・保育事業

- ・定期的な教育・保育事業の利用状況は、就学前児童では「利用している」が約7割となっており、前回調査よりも8.1ポイント増加しています。また、年齢とともに利用者が多くなっており、3歳以降では9割以上の方が利用しています。
- ・教育・保育事業を利用している理由は、「現在就労している」が約6割、「子どもの教育などのため」が2割台半ばを占めています。
- ・一方、利用していない理由は、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 必要がない」が4割強、「子どもがまだ小さいため(0歳くらいになったら預けようと考えている)」が2割強となっています。5年前と比べると、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 必要がない」が減少し、「子どもがまだ小さいため(0歳くらいになったら預けようと考えている)」や「預けたいが、空きがない」が増加しています。
- ・平日に定期的に利用している事業は「認可保育所」が5割台前半、「幼稚園」が3割台半ばで、5年前と比べて利用している事業に差はみられません。
- ・平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したい事業は、「幼稚園」と「認可保育所」が最も多く、次が「幼稚園の預かり保育」、「認定こども園」となっています。
- ・平日の教育・保育の事業を選ぶ際に、重視する点は、「自宅の近く」という立地に関わる項目が最も多く、次が「園長・保育士・職員スタッフ等の対応や園の印象」、そして給食や施設・設備面の機能的な項目があげられています。
- ・この1年間で保育所を探したかについては、「探した・探している」が約3割、「保育所探しはしていない」が7割強となっています。子どもの年齢別にみると、0歳で5割台半ばと高くなっています。また、保育所を探した結果については、「認可保育所に入園した」が約4割と最も高くなっているものの、「どこにも入れず、現在も探している」と「保育の利用はあきらめた」にも約1割の回答があります。
- ・土曜・休日や幼稚園の長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用については、土曜・休日は利用ニーズは相対的に低く、土曜日で約3人に1人、休日で約7人に1人が「利用したい」と考えています。一方で、幼稚園の長期休暇中の教育・保育の利用意向は約半数と高くなっています。

### ○地域子育て支援事業等

- ・地域子育て支援拠点事業の利用状況については、「子ども家庭支援センター」で1割台半ば、「子育てひろば」で2割台後半となっていますが、「利用していない」が約6割と多くなっています。今後の利用意向については、いずれの施設も新規の利用希望が約2割となっています。
- ・就学前児童では、お子さんの病気やケガで通常の事業が利用できなかったことについては、「あった」が約7割となっており、その際の対処方法としては、「母親が仕事を休んだ」が約7割、「親族・知人にみてもらった」が約4割、「父親が仕事を休んだ」が約3割となっています。また、父親か母親が休んだ際の病児・病後児保育の利用については、「できれば利用したい」が施設型で約6割、訪問型で約3割となっています。
- ・小学生児童では、お子さんの病気やケガで学校を休んだことについては、「あった」が約6割となっており、その際の対処方法としては、「母親が仕事を休んだ」が4割台後半、「就労していない親がみた」が3割台半ばとなっています。
- ・不定期な一時預かり事業については、就学前児童で「利用していない」が約7割と大半を占めているものの、約半数が今後利用希望があると回答しています。

⇒就労する母親の増加などを背景に、教育・保育事業の利用ニーズは5年前と比べ、増加していると言えます。また、現在利用している事業としては「認可保育所」が5割台前半、「幼稚園」が3割台半ばとなっているものの、今後の利用希望は「幼稚園」が「認可保育所」をやや上回っており、教育と保育を兼ね合わせた「認定こども園」の利用希望も0～2歳で3割を超えています。また、幼稚園利用者の中には長期休暇中に教育・保育を利用したいと考えている人も多くみられます。

また、この1年の間に保育所を探した人の中でも、「どこにも入れず、現在も探している」と「保育の利用はあきらめた」に約1割の回答があり、対応が必要であると考えられます。

一方で、区で実施している一時保育事業や病後児保育室等については、知っているものの利用に至っていないケースも多くなっています。そのため、量的・質的な教育・保育事業の充実を図るだけでなく、地域子育て支援事業をはじめとする現在実施している各種サービスや設置している施設が十分に

利用されるよう、区民のニーズを的確に把握しながら、その機能やあり方を検討し、周知普及していくことが重要です。

### Ⅲ 子どもの居場所について

#### ○放課後の過ごし方

- ・就学を控える就学前児童の希望する低学年の放課後の過ごし方は、「習い事」が5割強で最も多く、次が「子どもスキップ」で5割弱、「自宅」が約4割となっています。また、高学年の放課後の過ごし方としては「習い事」、「自宅」、「子どもスキップ」が多くなっています。
- ・小学生児童の希望する低学年の放課後の過ごし方は、「習い事」が5割前半で最も多く、次が「自宅」で3割後半、「子どもスキップ」と続いています。また、高学年の放課後の過ごし方としては、「習い事」、「自宅」、「子どもスキップ」、「その他（公園など）」が多くなっています。
- ・小学生本人の放課後の過ごし方は、現在では「学習塾や習い事に行く」が4割前半は、「自宅で兄弟・姉妹や家族と過ごす」が約4割、「自宅で1人で過ごす」が約2割となっています。希望としては、「自宅で兄弟・姉妹や家族と過ごす」が2割強、「友だちの家で過ごす」が約2割となっています。
- ・学校から帰ったときに、家におとながいるかについては、小学生本人では「ほとんどいない」が2割弱、中高生本人では1割前半ばとなっています。

#### ○学童クラブ

- ・就学前児童の「学童クラブ」の利用希望は、低学年で3割前半は、高学年で1割後半となっています。
- ・小学生児童の「学童クラブ」の利用希望は、低学年で2割後半、高学年で1割強となっています。
- ・現在の学童クラブの未利用の理由は「現在、就労していないから」が多くみられました。
- ・小学生本人の高学年になっても学童クラブを利用したいかについては、「利用したい」が1割前半ばとなっています。

⇒放課後の過ごし方として、自宅や習い事以外では、「子どもスキップ」が小学校低学年・高学年ともに重要な居場所になっていることがうかがえます。小学生児童の場合、年齢が上がるとともに保育よりも自主的な活動の場や習い事等が求められますが、就労している母親も多いことから、学童クラブに対する一定のニーズはあると考えられます。これらの場合も含め、地域の様々な場が小学生児童の過ごす場として適切な場となるよう、地域の見守りの目を育てていくことが必要となっています。

### Ⅳ 子どもの生活状況、区への要望等について

#### ○子育て支援について

- ・子育てについてどのように感じているかは、就学前児童・小学生児童・中高生ともに「楽しいと感じることの方が多い」と回答した人が6割から7割前半で多くなっています。
- ・子育てに関して地域からの支援が必要だと感じたことについては、就学前児童・小学生児童・中高生ともに「感じたことがある」が4割前半となっています。
- ・地域の子育て力の向上のために有効な取り組みについては、就学前児童・小学生児童・中高生ともに「隣り近所の人子どもと顔見知りになり、声を掛け合う関係をつくるなど」が5割台で最も多くなっています。また、就学前児童・小学生児童では、「町内会・自治会等によるお祭りやイベント開催、防犯活動など」が5割前後と高くなっています。
- ・現在の不安や悩みの相談先については、就学前児童・小学生児童・中高生ともに「身内（親、配偶者、兄弟姉妹など）」が8割台で最も多くなっていますが、身近な場所で情報・相談を受けたい場所としては、保育園・幼稚園・学校などが3割から5割で最も多くなっています。
- ・子育てに関して不足している情報については、就学前児童では「子どもと一緒に外出できる場の情報」、小学生児童・中高生では「子どもの進路や進学に関する情報」が最も多くなっています。
- ・子育て支援に関する施策や事業について望むことについては、就学前児童・小学生児童では、「子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備」と「子どもが安心して遊べる公園等の屋外遊び場の整備」が5割台、中高生では「子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備」が5割台となっています。

⇒希望する子育て支援は、いずれの年代においても子どもが事故や犯罪に巻き込まれない環境整備や屋外の遊び場の充実、休日・夜間診療の充実や経済的負担の軽減などに対する意向が高いと言えます。また、外出の際に気にかかる点として、雨の日に子どもを遊ばせる場所がないとの回答も多くなっていることから、屋内外問わず、子どもの遊び場の充実に対する要望が多いと考えられます。また、事故や犯罪に巻き込まれない環境整備については、地域の子育て力の向上のために有効な取り組みにおいても、隣り近所と声を掛け合う関係をつくるや町内会・自治会等による防犯活動などを希望する割合も高くなっていることから、地域ぐるみで取り組むことが有効であると考えられます。情報提供や相談・交流の場としては、現在は身内や職場の人など身近な人に相談する割合が高くなっています。また、身近な情報・相談を受けられる場所として、保育園・幼稚園・学校などが挙げられていますが、単なる相談場所でなく、子どもに遊びやしつけを教えてくれたり、父親・母親同士の交流の場となることが期待されています。さらに、中高生では、電話やインターネットでの相談・情報を得ることができるが最も多くなっています。子育てに不足している情報としては、年代によって求めている情報が異なることから、必要な情報が必要な人に届けられるよう、適切かつ効果的な情報提供を図ることが大切であると考えます。

## V 小学生、中高生等本人の状況について

### ○普段の生活について

- ・平日テレビやビデオを見る時間は、「1時間～2時間の間」が最も多く、ゲームやメールなどをする時間や勉強時間は「30分～1時間の間」が多くなっています。
- ・インターネットの使用については、使っている割合が小学生本人で6割台後半、中高生等本人で約9割となっており、その内容はともに「動画サイトを見る」が5割台で最も多くなっています。
- ・自分専用の携帯電話（スマートフォン）を持っている割合が小学生本人で5割、中高生等本人で7割台後半となっており、「毎日使う」が3割台後半から4割台前半となっています。また、中高生等本人では、「LINE等のアプリを利用して常時やりとりをしている」が携帯電話所有者の半数を超えています。
- ・学校等であったことについて、家族と話をする割合が8割台後半となっており、「母親」と会話する割合が9割を超えています。
- ・家族全員で朝食をとる割合については、小学生本人では「ほとんど毎日」、「週に1～2回くらい」、「ほとんどない」がそれぞれ3割前後となっているものの、中高生等本人では「ほとんどない」が4割台半ばとなっています。

### ○悩んだり、困ったりしていることについて

- ・学校や仕事を楽しいと感じている割合が小学生本人、中高生等本人ともに8割台後半と大半を占めています。
- ・悩んだり、困ったりしていることとしては、小学生本人では「勉強のこと」が2割台半ば、「進路や進学、将来のこと」が約2割となっており、悩みや困っていることの相談先は、「お母さん」が7割台後半、「友だち」が3割台半ばとなっています。
- ・中高生等本人では、「進路・進学、将来のこと」と「勉強のこと」が約5割と特に多くなっており、相談先は、「家族（親・兄弟・姉妹など）」と「友だち・先輩」が6割台前半となっています。

### ○豊島区について

- ・この1年間に参加した地域活動では、「地域の祭り・盆踊り」が小学生本人で7割台前半、中高生等本人で約4割となっていますが、中高生等本人では「参加したことはない」が約5割と多くなっています。
- ・区の施設の利用については、「区の図書館」、「区の公園」、「学校の校庭開放や施設開放」などの利用が多くなっています。「中学生センター（ジャンプ東池袋・長崎）」の利用は2割弱となっています。
- ・豊島区が好きかについては、小学生本人、中高生等本人ともに「好き」と「どちらかといえば好き」が合わせて9割台前半となっています。
- ・大人になっても豊島区に住み続けたいかについては、小学生本人、中高生等本人ともに「住み続けたい」が4割弱となっているものの、「わからない」が4割台後半と最も多くなっています。



⇒普段の生活について、子どもたちがインターネットや携帯電話等のICTメディアを日常的に利用するようになり、生活におけるICTメディアの位置づけが大きくなってきました。それと同時に、さまざまなトラブルに巻き込まれたり、自分は悪気がないのにトラブルの加害者になったりすることが発生するようになっていきます。そのようなことが起こらないよう、ICTメディアリテラシについて、きちんと理解した上で利用することが重要です。

悩んだり、困ったりしていることについては、「勉強のこと」や「進路・進学、将来のこと」が多く、相談先は家族が多くなっていますが、中高生等本人になると友だちが倍になっています。

この1年に参加した地域活動では、「地域の祭り・盆踊り」で学年が上がるにつれ割合が減少し、さらに中高生等になると、「参加したことがない」が約半数となっており、地域とのつながりの希薄化が懸念されます。

小学生、中高生等は今後の豊島区を支え、形づくっていく大事な資源です。しかし、豊島区に愛着はあるものの、定住意向は半数以下に止まっています。小学生、中高生等が自分らしく生活でき、豊島区に愛着を持ち続け、家族を築いていけるよう、長期的な視点に立った子育て支援策を進めることが重要です。